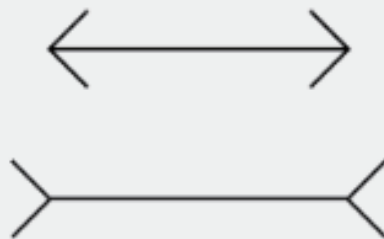


錯視とは

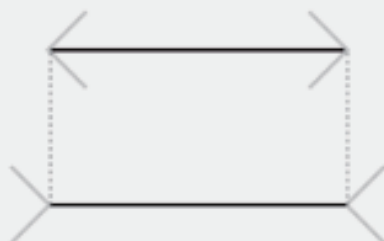
錯視の中でも有名なのがこちらのミュラー・リヤー錯視※1です。

下記の画像をご覧ください。上下の水平線は、どちらの方が長く見えるでしょう？



下の図の方が線が長く見えた方が多いのではないのでしょうか？

しかし、この2本の線は同じ長さです。



1. 三角形分割錯視

下記の図をご覧ください。

左がレイアウトアプリケーションの自動整列機能を使い三角形を中央に配置したボタン、右が三角形の重心を中央に配置したボタンです。

左右のボタンを見比べ、どちらがバランスよく見えるでしょうか？



話は少しそれてしましますが、三角形以外の形の場合どのような視覚調整が行われているのでしょうか？身の回りにあるロゴやシンボルグラフィックを検証してみたいと思います。

上の図は移動時にたまたま目に入った東京メトロ副都心線のサイングラフィックです。このサイングラフィックの見本を元に、サイン中央のFをIllustratorの整列機能で円の中心に配置してみます。すると、Fの位置が見本と異なっていることが分かります。ガイド線を引くと分かりやすいと思います。副都心線の路線マークでは、Fの位置が少し右に配置されており、ピジュアルウエイト※3を考慮し錯視調整が行われていることが見てとれます。



整列機能でFを円の中心に配置したもの



副都心線のサイングラフィック

このように、整列機能で数値上のレイアウトを揃えるだけでは人の目で見えた印象が大きく異なってしまうのです。

2.上方距離過大の錯視

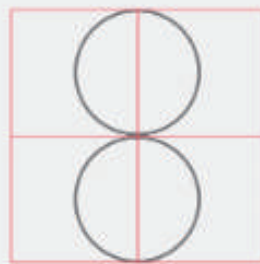
下記の図の縦に連なる2つの円を見てみましょう。

上に位置する円の方が大きく見えるのではないのでしょうか。



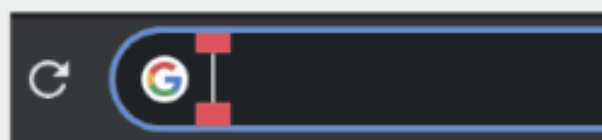
しかし、2つの円は同じ大きさです。円の上にガイド線を引いてみると、どちらも大きさが同じであることがわかると思います。

このように数値上は同じ大きさや長さでも、上に位置する方が下に位置するよりも大きく認識してしまうことを上方距離過大の錯視といいます。



8

H



3.形による錯視

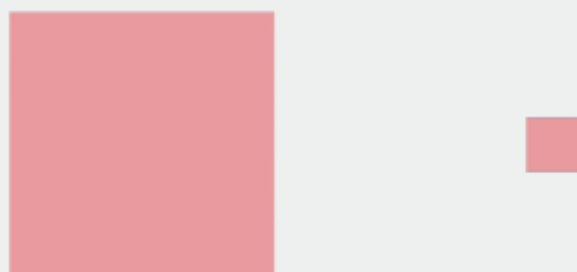
下記の図には同じ大きさの四角、丸、三角が並んでいます。四角と比べて、丸や三角の方が小さく見えるのではないのでしょうか？



AHOV

4.色の面積効果

下記の図に大きさが違う2つの四角があります。2つの四角の色に注目してみてください。どちらの方が明るく見えるでしょうか？



#0F64D2



#2E64CA